

■教育学研究科カリキュラムマップ

教育学研究科ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

特別な教育的ニーズを有する児童生徒への教育に関する高度な資質・能力とそれらを支える理論的基礎に基づき、「共生社会」の構築に向けて現代社会が抱える問題を発見し、教育に関する諸問題の解決を具体的に推進しうる研究者、高度職業人として認められたものに「修士（教育学）」を授与します。

- ①資質・能力・・・それぞれの教育的ニーズを有する児童生徒への教育に関する高度な資質・能力を修得する。
- ②理論的基礎・・・それぞれの教育的ニーズを有する児童生徒への教育に関する理論的基礎を修得する。
- ③問題発見・解決力・・・「共生社会」の構築に向けて現代社会が抱える問題を発見し、教育に関する諸問題の解決を具体的に推進しうる。

授業科目	主題	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係		
			①	②	③
研究指導Ⅰ（研究・論文指導）	担当教員ごとのシラバスを参照	担当教員ごとのシラバスを参照	◎		◎
研究指導Ⅱ（研究・論文指導）	担当教員ごとのシラバスを参照	担当教員ごとのシラバスを参照	◎		◎
教育思想史特論	教育思想史の研究	・教育思想史についての基本的な理解を得ることができる。 ・その理解をもとに、教育についての自分の教育観や教育における哲学的視点を構築することができる。	○	◎	
教育社会学特論	現代の教育問題の分析視点	・今日の教育問題の実態を理解し、社会的背景と関連させながら自分の考えを説明できる。 ・教育を社会現象ととらえる教育社会学的視点を理解する。		○	◎
保育学特論	保育専門職の学びのあり方	・保育におけるアクション・ラーニングの意義を理解し、研究の実践者を志向する。 ・対話型保育の実際を理解し、保育カンファレンスを企画・運営できる。 ・リフレクションの意義と実際を理解し、保育における省察を実践できる。	○	◎	
教育情報学特論	教育の情報化に関する幅広い基礎知識を獲得する	・教育工学の歴史や定義などについて説明ができる。 ・教育の情報化の概要、目的、実態などに関する説明ができる。	○	◎	
教師教育学特論	リフレクションに関わる理論と実践	・教師の職能発達に不可欠な「リフレクション」の意味・意義を理解できる。 ・教師の「リフレクション」能力の基礎についてワークショップを通して身につける。 ・教師の職能発達に関する様々なアプローチとその具体を発表・交流する。		○	◎
教授学習心理学特論	心理学研究法の基礎から応用へ	この授業では、心理学の各種研究法を修得し応用的見地から説明できる。さらに人間相手に、実証的科学的な研究を行う際の倫理的配慮の諸事項を取得し、心理学研究法の応用力を修得し説明できることを目標とする	○	◎	
教育心理学特論	活用力に乏しいといわれる学習状況打破のための知識とは何か	・理解と応用のメカニズムについて適切に理解し、具体的な学習指導改善の提案ができる ・学習者に持たせる知識の質について適切な理解し、具体的な学習指導改善の提案ができる ・学習者の知識構造について適切に理解し、具体的な学習指導改善の提案ができる	○	◎	
臨床発達心理学特論	子どもの発達課題を知る	発達臨床心理学における観察法を理解し、その方法を修士論文作成過程で実践的に利用する技術を習得する。		○	◎
福祉社会学特論	共生社会の先進事例である北欧型福祉国家の形成過程とその取り組みを学ぶ	・福祉国家の諸類型について理解し、それに基づいた教育ができるようになる ・北欧型福祉国家の形成過程（フィンランド、スウェーデン、デンマーク等）を説明できるようになる ・他の先進諸国の福祉国家類型との比較を基にした教育ができるようになる ・共生社会に向けた北欧型福祉国家の取り組みを理解し、日本への適応可能性を模索できるようになる	○	◎	
教育学特別研究Ⅰ（教育・発達分野）	教育学または教育心理学的なタームを用いて、実際の学習指導に関し適切に問題点を指摘し改善方向を具体的に示唆できる視点を持つことにある。	・各種学習指導法の異同という視点から問題点を指摘し改善方法を示唆できる ・それぞれの学習指導法の利点と問題点という視点から問題点を指摘し改善方向を示唆できる ・それぞれの学習指導法が有効に成立する限界という視点から問題点を指摘し改善方向を示唆できる ・学習指導に絡む要因という視点から問題点を指摘し改善方向を示唆できる	○	◎	
教育学特別研究Ⅱ（教育情報分野）	教育の情報化を支えている情報技術を理解する	① ハードウェア、ネットワーク、データベースの基本的な動作原理を説明できる ② 情報システムの基本的な構造を説明できる	○	◎	
教育学特別研究Ⅲ（特別支援教育分野）	日本と世界の特別支援教育	・国内外の文献の抄読を通して障害児教育に関する知識を得る。 ・特別支援教育に関する自らの研究課題を見出し、研究を進めてその成果を発表できる。	○	◎	
授業分析研究A（人文社会科学系分野）	国語科・社会科の教材分析の理論と実践	・授業のビデオを視聴し、授業記録作成を行うことができる。 ・作成した授業記録から授業に必要な授業技術を分析することができる。 ・分かりやすい授業実践のために必要な授業技術について考えることができる。	○	◎	
授業分析研究B（自然科学系分野）	これまでの主に算数と理科の実践研究及び教授学習心理学研究の成果を生かし、「学習者の認識過程を生かした教授方法の開発」を目指した研究を行う。	・算数や科学の分野において、授業を行う上での学習者側と教授者側の課題を整理ができる ・数々の実践の中に登場する「学習者の認識過程（特に誤答（つまづき）」と「教師の認識過程」の分析ができる ・1点目と2点目を組み合わせて、学習者の認識過程、特に誤答（つまづき）を生かした教授法（発問系列、実験など）の開発ができる	○	◎	
授業開発研究特論	徹底した教材解釈を軸に共生型授業の開発を考える	・「こだわり」「学習遅滞」などの原因を学習者の「つまづき」と教材の徹底的分析をおして認知心理学的に理解できる ・健常児の学習を上記の視点から見ると上滑りな「わかったつもり」の状態であることが少なくないことを理解できる ・慣れや練習量によって学習を達成させようとする指導観を批判的に検討し、特別な支援を要する学習者と健常児の両者にメリットのある新しい教材解釈を軸とした共生型授業を開発できる ・徹底した教材解釈にいくつかの手法があることを適切に理解し、共生型授業を開発できる	○		◎
国語科教育特論	国語科ワークショップ型授業の理論と実践	・いま実践されているワークショップ型授業を理解することができる。 ・ワークショップ型授業を実際に行うために必要な知識及び技術の基礎を身につける。 ・各自が作成したワークショップ型授業を発表して意見交流ができる。	○	◎	
算数科教育特論	算数科における子どものわかりにくさとそれを踏まえた新たな指導法の必要性を理解すること	・子どもの学習におけるわかりにくさとその要因について理解できる。 ・新たな教材や指導法の必要性を理解し、教材研究や指導法の工夫を通して、課題解決の方法を考えることができる。	○	◎	

理科教育特論	子どもへの自然科学の概念形成に有効な方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科教育の中から適切な分野を選択し、その成果と課題をプレゼンテーションを行うことができる。</li> <li>・過去の実践例から学習方法を習得し、実験方法などを基にした話し合いができる。</li> <li>・授業プランの中で具体的な発問の系列をつくり、発問の意図を明確にした提案ができる。</li> </ul>	○	◎	
社会科教育特論	小学校社会科授業実践 応用編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間カリキュラムの作成方法を理解することができる。</li> <li>・各自選択した単元の指導計画作成方法を理解することができる。</li> <li>・各自作成した指導計画に基づいて授業を行い、互いに意見を交流することができる。</li> </ul>	○	◎	
歴史学特論	歴史資料論と教科書記述の変遷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史学における新しい動向を把握できる。</li> <li>・地域に立脚した時代区分がなぜ求められているのか理解できる。</li> <li>・多様な歴史資料を活用できる方法論を会得し、豊かな「東北」像を具体的に再現できる。</li> </ul>	○	◎	
政治学特論	近現代の政治体系(国内及び国際)と日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西欧国際システムの成立から第二次世界大戦までの変容の推移を把握できること</li> <li>・上記のシステムがどのようにして双極化したのかを把握できること</li> <li>・西欧国際システムと非西欧国際システムが接触した場合、どのような反応が出現したのかを理解できること</li> <li>・日本の場合はどうであったのかを把握できること</li> </ul>	○	◎	
経済学特論	授業のテーマは「日本経済と経済政策の教育」とする。戦後日本経済の推移を検討するとともに、現在日本経済が抱えている問題(例えば、雇用、社会保障の問題)の解決をどのように図るかを、経済理論および制度を紹介する中で考察する。	「日本経済と経済政策の教育」というテーマの下で、戦後日本経済の推移を検討するとともに、現在日本経済が抱えている問題(例えば、雇用、社会保障の問題)の解決をどのように図るかを、経済理論および制度を紹介する中で考察する。到達目標は、経済問題について、他人の説を鵜呑みにするのではなく、自分なりに考えることができ、教育する能力を身に付けることにある。	○	◎	
法学特論	憲法の保証する教育を受ける権利(社会権の基本権)の理解を基礎に、各種関連法令の体系的講義を行う。	発達障害及び通常学級における特別な教育支援を必要とする児童生徒への適切な指導、支援ができる教員や研究者としての有用な法律関係知識を習得する。	○	◎	
地域調査特別研究(実習を含む)	実践から視点を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べる方法の基礎が理解できる。</li> <li>・調べたことをまとめ、記述できる基礎が理解できる。</li> <li>・調べたことを発表するための準備の基礎が理解できる。</li> </ul>	◎		◎
特別支援教育学特論	我が国の特別支援教育の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国におけるインクルーシブ教育についての自分の考えをまとめ、新たな視点や教育方法について提案等ができる。</li> <li>・発表された内容を基に、テーマに沿った討議ができる。</li> <li>・テキストや参考文献を読み、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。</li> </ul>	○	◎	
障害児学習支援特論	発達障害を始めとする様々な障害を持つ子どもを教育的に支援するため、その認知的特徴と発達過程を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの言語・記憶・制御過程など認知発達の基本課程が理解できる。</li> <li>・各障害の認知的特徴を理解し、認知的特徴に配慮した学習支援方法を考えることができる。</li> </ul>	○		◎
障害児・者の心理特論	特別支援教育の対象となる児童生徒を心理学的側面から理解すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害児・者の行動を心理的諸側面から捉え、適応的な行動を獲得するために必要となる支援にとって何が必要なのか提案できる</li> <li>・知的障害児・者を中心に据え、視覚・聴覚障害、肢体不自由・病弱、発達障害も含めた障害児・者の心理特性について適切にアセスメントでき、それをふまえてライフステージに沿った支援方略を提案することができる。</li> <li>・障害児・者の家族に対する支援方略を考え、社会との橋渡しをマネジメントできる。</li> </ul>	○	◎	
発達障害児教育実践研究	教育的関わりとは何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害児と関わることができる</li> <li>・発達障害児の行動特徴を知る</li> <li>・文献と学生の1点目、2点目の体験と比較検討する</li> </ul>	○		◎
特別支援教育コーディネーター特論	特別支援教育コーディネーターの機能や役割、備えるべき資質の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や地域における特別支援教育コーディネーターの位置づけと機能を説明できる。</li> <li>・保護者への相談援助の方法や、連携する他職種や諸機関の活動について述べることができる。</li> <li>・特別支援教育コーディネーターの役割と資質等について論じることができる。</li> </ul>	○		◎
障害者福祉特論	特別支援教育を実践する上で、連携が必要となる障がい児者福祉の、現状と課題について理解すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい児者福祉の制度と現状について説明し、その課題を指摘できる</li> <li>・1点目を踏まえ、特別支援教育を実践する上で、児童生徒の生活場面までも視野に入れた指導の提案ができる</li> </ul>	○	◎	
障害児教育支援特論	「知的障害を中心とする障害児の理解と教育」とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的視点から発達を理解し、働きかけについて具体的に説明できる。</li> <li>・知的機能(認知機能)について理解し、そこから知的障害の特徴について説明できる。</li> <li>・知的障害児のアセスメントを行い、個別指導計画を立てることができる。</li> <li>・スーパービジョンの視点から具体的な育児・保育・教育のあり方について支援計画を立てることができる。</li> </ul>	○		◎
児童精神医学特論	児童期に見られる精神疾患の概念を理解し、説明できる。	児童期に見られる精神疾患の概念を理解し、説明できる。	○	◎	
発達障害者教育特論	発達障害について基本的な理解を深めるとともに、発達障害のある子どもへの支援方法を具体的に体得する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に通常学級に在籍する学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、自閉スペクトラム症(ASD)といった発達障害の定義・分類を理解する。</li> <li>・最近の研究知見を通して、発達障害のある子どもの認知的・心理的特徴を理解し、心理教育的援助方法を習得する。</li> </ul>	○	◎	
自閉症者・情緒障害者 教育特論	自閉症児の認知障害と認知能力を高める指導方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症児の行動特徴及び認知の特性について具体的に述べることができる。</li> <li>・自閉症児の認知特性に応じた発達課題について理解し詳述できる。</li> <li>・自閉症児の認知特性に応じた指導方法について理解し詳述できる。</li> <li>・自閉症児の認知特性に応じた指導プログラムを実際に作成する。</li> <li>・情緒障害児の種類や特性、及び教育的対応方法を理解する。</li> </ul>	○	◎	
知的障害者教育特論	知的障害児の特別支援教育における教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害特別支援教育における教育課程編成の意義について具体的に述べる。</li> <li>・通常教育の教育課程の変遷について説明できる。</li> <li>・知的障害特別支援教育における海外、及び国内の教育課程の変遷について説明できる。</li> <li>・知的障害特別支援学校における教育課程の編成の仕方を理解し、実際に作成することができる。</li> </ul>	○	◎	

聴覚障害者教育特論	聴覚障害教育とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間のコミュニケーション行動を理解する</li> <li>・聴覚障害と言語発達を理解する</li> <li>・聴覚障害教育の方法・内容を理解する</li> </ul>	○	◎	
言語障害者教育特論	特別支援教育における言語障害教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語産出のメカニズムについての知識を得る。</li> <li>・様々な障害に起因する言語障害について理解する。</li> <li>・様々な言語障害に対する指導方法について理解する。</li> <li>・言語障害に関する国内外の文献の抄読を通して、言語障害の理論および研究動向に関する知識を得る。</li> <li>・聴覚障害と言語発達を理解する</li> <li>・聴覚障害教育の方法・内容を理解する</li> </ul>	○	◎	
病弱者教育特論	特別支援教育という枠組みの中で、従来の病弱教育の категорияの中で納まりきらない児童生徒をも対象としている現状を踏まえ、新たな枠組みについて考察し、それに基づいた理解と支援について提案すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の病類ごとの心理社会的支援と教育的支援について説明できる。</li> <li>・心の病の児童生徒の生活・行動的支援と教育支援について説明できる。</li> <li>・病弱特別支援学校のセンター的役割の特徴について解説できる。</li> </ul>	○	◎	
肢体不自由者教育特論	特別支援教育という枠組みの中で、従来の病弱教育の categoriaの中で納まりきらない児童生徒をも対象としている現状を踏まえ、新たな枠組みについて考察し、それに基づいた理解と支援について提案すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の病類ごとの心理社会的支援と教育的支援について説明できる。</li> <li>・心の病の児童生徒の生活・行動的支援と教育支援について説明できる。</li> <li>・病弱特別支援学校のセンター的役割の特徴について解説できる。</li> </ul>	○	◎	

※◎特に重要, ○重要, △望ましい